

平成 28 年度 新潟県コミュニティづくり協議会中越ブロック研修会
浦佐地域づくり協議会「プロジェクト事業」説明会 資料

2017.2.18

浦佐ホテルオカベ

風が吹けば・・・プロジェクト

『農村ミュージアム化とフットパスコース整備』事業説明と勉強会

1 はじめに

浦佐地域づくり協議会が提案するプロジェクト事業『農村ミュージアム化とフットパスコースの設置』は、小さな農村地域と浦佐旧市街地域の**活性化に向けた試験的事業**です。農村地域と旧市街地域に活力を取り戻し、様々な交流を拡大すると同時に“地域や農業などに関する情報発信”を直接（話す）・間接的（Web&印刷媒体など）手法で進め、地域と共に生きる**新たな定住者など人口の増加を遠望**し、持続可能な地域にすることを目標とします。

実現には長期の取り組みが必要となっており、日常的な取り組みとして継続させるため、地域・関係者の深い理解と協力を必要とし、景観づくりや農村らしいお接待など、地域の文化にまで高める必要があると考えています。

今回の提案は、そうした遠大な事業における「最初の説明」ですが、人口減少や農業の担い手不足は魚沼地域とりわけ周辺地域（多くは農村部）に共通していると思われる、**フットパスコースの広域的取り組み**により、事業効果も高まると考えられ、地域活性化に向けた一つの提案です。



風が吹けば・・・ 今、出来そうなことをやろうか！

今回私たちは、人口の減少が続く小さな農村と旧市街の取り組みを「**風が吹けば・・・プロジェクト**」と命名し、“こうすれば、結果はこうなる！”と直ぐに結果を望むことは難しいが、いま地域が出来ることを積み上げ、地域の資源を磨くことによって……

“**やがて新たな定住者を招き入れる環境を作れる**”と考えています。「フットパスコース」を浦佐と五箇の地域に設定し、地域を磨き上げるための「農村丸ごとミュージアム化」をすることによって“定住希望者”への働きかけをしようとするプロジェクトです。



2 周辺市街地と農村部の状況

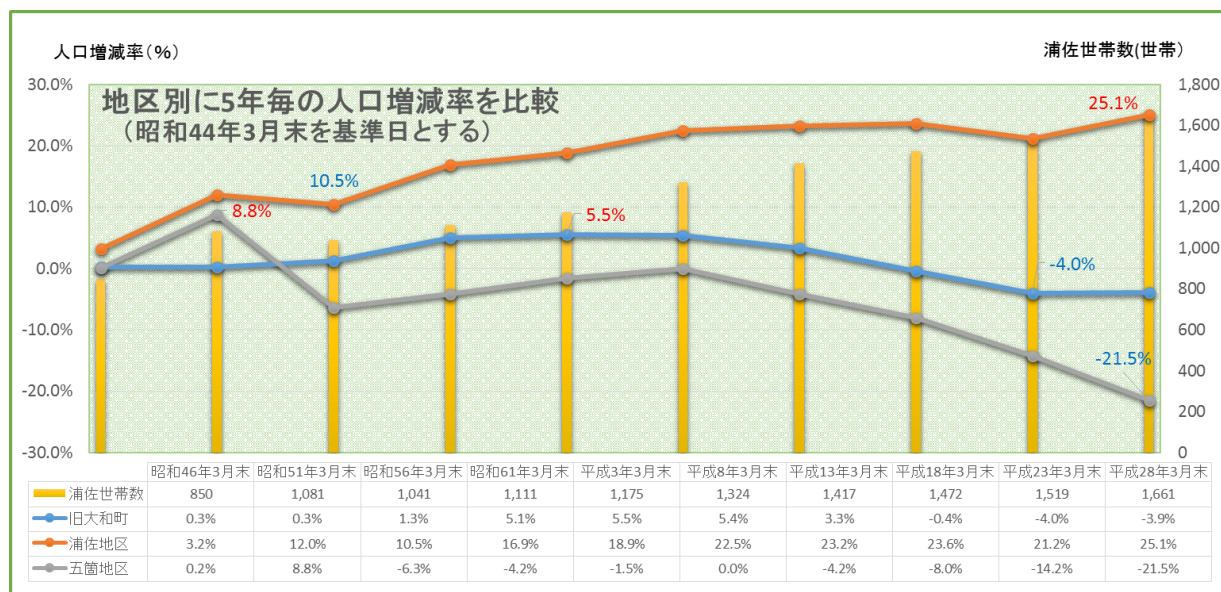
大和地域にあっても全体的な人口減少傾向（浦佐地区では人口・世帯数ともに増加している）のなか、日常生活が比較的便利な市街地・中心地域へと人口の集中傾向にあつて、行政区毎の世帯数など地域内の分布構成は大きく変化をしています。



そのことは旧大和町が、'70年代からの「新幹線駅」「学園都市」「医療と福祉の街」、そして新たなまちづくり等によって政策的に進められてきたことの成果(結果)であると思います。



しかし中心地域における人口増加傾向のなか、農村部や旧市街地域では、人口及び戸数は減少の一途を辿っていて、遠くない将来には“集落維持も難しい”状況を想像することができます。この半世紀、大家族から核家族へ、そして高齢者世帯からひとり暮らしへ、やがて空き家が生まれ、耕作地などが荒廃し、雑草や木々が繁る状況が・・・少しずつですが見え始めたように思えます。



3 旧市街地域や農村地域には、活性化と定住世帯の維持と増加が必要！

そこに暮らす人々には、「潤いある生活空間」、「豊かな景観」、「安全と安心な地域」、そして遠くない通勤範囲に安定した「就業の場」が必要と考えますが、これらのバランスが大きく変化すると人口の増減など社会現象となって現れます。ここ数十年における「少子化」傾向の進行は、人口減少地域にとって更に急速な変化を招くであろうことを連想してしまいます。



そうしたことから、地域の生活環境を維持するため“一定程度の世帯数と人口は必ず必要”なことであり、“最低でも現状維持”することが必要と考えます。豊かな周辺地域が

あってこそ中心地域が存在するのであり、そうした地域に新たな活力を発生させる方法の一つは「定住人口の維持と増加」であり、元気な指標は「小さな子供たち」の遊ぶ声だと思います。

4 地域資源と そこに暮らす人々を活用する “地域活性化”

私たちの考える地域資源とは、「魚沼の山々と農村景観」「豊かな水と緑」「美味しいお米」「冬の雪と変化に富む四季」、そしてそこに暮らす「人々の生活文化と人情」・・・などでしょうか。



浦佐新町「地蔵の清水」

こうした地域資源であれば市内地域どこにでもある情景であり、また世の中の都市化や集中化・デジタル化が進めば進むほど、こうした“癒しの資源”に魅力を感じる人も意外に多いのではないのでしょうか。

そしてまた、交通アクセスの豊かさと、適度に要する移動時間と距離にあると思います。こうした地域資源に磨きをかけ、商品化することで旅行者・観光者を呼び込み、農林業の6次化など経済的な交流を発生しようとする手段として「foot-path」(フットパス)の導入を提起したいと思います。



H27年10月「日本フットパス協会」の皆さんによる“試行”から抽出（浦佐〜境川）

5 フットパス(foot-path)とは

フットパスとはイギリスで発祥した「歩くことを楽しむための道」のことで、農村部を中心に、イギリス国内を網の目のように走っている“公共の散歩道”です。長いものだと160kmも続くものもあります。川や丘は当然ですが、農場や自宅の敷地内を通る道もあり、英国国民にはフットパスを大切な（権利）にする文化が広く醸成されています。（協会 HP より）



楽しめる景観や文化を探して

ゆつくり歩きます

もともと「歩くことを楽しむための道」という意味で、今でこそ羊を飼うために柵があったりするわけですが、初めに道があったのだからその道を廃止する権利は誰にもなく、歩く権利「The Right of Way」があるという考えからきています。フットパスは農場や自宅の敷地内など私有地にまで道が続いており、イギリスでフットパスが大切にされ、「歩く」という文化が発達していることが分かります。

「歩く道」を意味する英語に由来しており、トレイル（Trail）とほぼ同じ意味でも用いられている。200 年近い歴史を刻んでいて、総延長 20 万 km を超すフットパス網が出来上がっている。「歩く権利法（Rights of way）」という名の法律が 1932 年に制定されていて、ロンドンなどの大都市の中にも多数のフットパスが通っている。

フットパスはピーク（山頂）を目指す登山道、特定の目的（地）を指向するハイキングコース、あるいは国立公園や森林公園の中だけで完結するクローズドな遊歩道、園路とは根本的に違う。ある特定の目的を実現するための道というよりは、『**“多様”な要素の環境の中を歩く道**』とみるべきだろう。



田園地帯（カントリーサイド）、森林、草原、川沿い、海岸線は言うに及ばず市街地、工業地帯が含まれていても一向に構わない。自分のペースでルート沿いの自然、文化、歴史、景観、農業、漁業、酪農などに直に触れ合える楽しみがある。

「何をもってフットパスというのか」を問われれば『**つながり**』に他ならないと思う。**「人と人」「地域と地域」あるいは「人と地域」**の「つながり」である。イギリスのみならず日本各地にフットパスを歩いた経験からいえば、北海道が一番「フットパス」の似合う土地と確信を持って言える。

（エコ・ネットワーク代表 小川 巖）

6 地域資源に磨きをかける（風が吹けば・・・プロジェクト）

浦佐の西山地域と五箇地域は“列島改造”の時代から 45 年を経ても“変わらなかった地域”の一つですが、地域には「小さな観光」に有効な資源は“雪国魚沼”であり、生活文化も含め多くの資源を持っていると思っています。

例えば、①交通の利便性 ②何もない小さな農村と里山 ③歴史ある三国街道 ④毘沙門様と旧市街 ⑤河岸段丘から眺める越後三山 そして ⑥魚沼という雪国と美味しいコシヒカリ・・・等々、如何でしょうか。

このプロジェクトの最も特徴的なことは、“**小さな農村を丸ごとミュージアム化**”することにあります。普段見ることのできない、或いは触れることのできない **“農の現場へ足**



を踏み入れるフィールドを創ろう” とするところにあります。
時々訪れる旅行者・観光者と “直接話す” など交流する機会を持つことによって、農家が何某かの元気をもらい、
“おもてなしのエネルギーにする” ことが持続へとつながり、
もしかしたら・・・定住に興味を示す人が現れる・・・そんなプロジェクトです。（プロセスは別途説明）

（恥ずかしながら・・・、風が吹けば・・・〇〇〇が儲かる的なプロジェクトの意味で、**成果はともかく “大人の遊び感覚でやってみよう！”**・・・です）



7 大きな資本投資を必要としない活性化策です

一時期に大きな資本を投資することなく、地域を活性化させる手段として “フットパス” の導入を目指したいと考えています。フットパスには多くの旅行者・観光者は期待できませんが、歩くことが基本なことから、地域の収容能力に見合った旅行者・観光者を、長い時間にわたり迎え入れることができ、また知ってもらえると考えます。

コースの設定と整備、休息と見学（耕作地・作業場・農業機械、作業体験）が可能な協力農家と民家、コース図作成と情報発信などにより「小さな観光」が可能と考えます。そしてコースの維持管理、農地の草刈りなどの景観対策、休憩のためのベンチや庇、トイレの要望など、全てはそこに暮らす人々が活動・活躍することによって運営されます。



例えば・・・

変化に富んだ旧三国街道 河岸段丘 むせかえるような “草いきれ” の里山と道祖神

村の小さな神社 雪国の切妻の家 “家庭菜園”

水路の魚と虫たち 群がるトンボとイナゴ 畔道

農作業と道具 大きな農業機械

取れたての山菜と料理

〇〇〇〇体験

山菜取り 収穫体験



小さな農村を発見・体験するフットパス！

8 フットパスコースは広域的な広がりも大きな魅力

魚沼地域には、先に述べたように大きな魅力ある地域です。

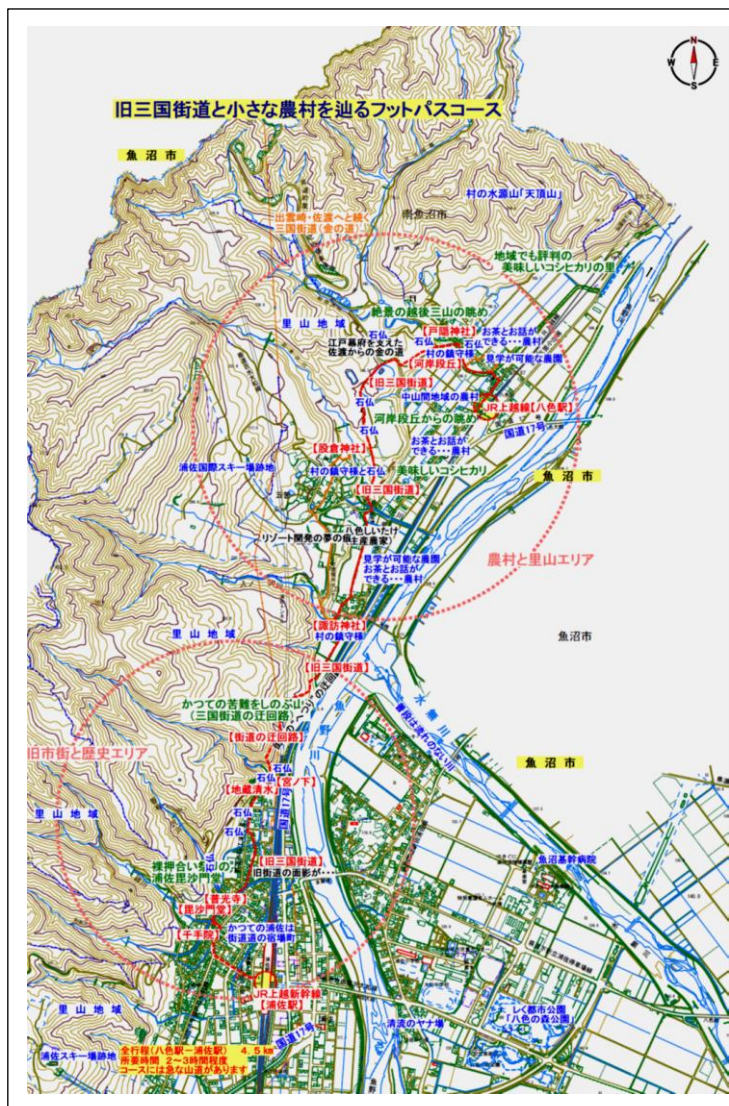
関東圏からは僅かな時間でアクセスが可能であり、秀麗な山々と極めて変化にとんだ四季、そして豊かな水と農村があります。こうした広いフィールドに多くのフットパスコースの整備、そこから新しい「小さな観光」を考えてみませんか。



起点となる浦佐西山地域



旧三国街道から見る「越後三山」



フットパスコース（こんなコースが出来たら・・・）

- 歴史と旧三国街道コース
- 森林浴と里山コース
- 農家と田圃と畑をまわるコース
- 魚野川と水無川を歩くコース
- 農作業体験コース
- 山菜、山の恵など収穫コース
- かんじきのフットパス

未熟なる資料を最後までお読みいただき ありがとうございます。

お問い合わせ・詳細は「HP 又は協議会」までお願いします

☎ 025-777-4535 〒949-7302 南魚沼市浦佐 2467

HP・ブログは「浦佐地域づくり協議会」で検索！

（資料作成：2017年1月）